

## (4)道徳の評価の観点はどうする？

学習指導要領で示された評価の観点を活用しつつも、「道徳的価値の理解」への一面的な同調のみを思考の発展や深まりととらえる評価ではなく、「道徳的価値の実現の困難さ」「教材文と現実社会との乖離」などを指摘する考えや意見なども、「多面的・多角的な見方」として、積極的に評価していくことが大切です。

### 観点①「多面的・多角的な見方へと発展しているか」

- ・道徳的な問題に対して、様々な視点からとらえ考えようとしている。
- ・自分と違う意見や立場を理解しようとしている。
- ・複数の道徳的価値が対立する場面で多面的・多角的に考えようとしている。



### 観点②「自分自身との関わりの中で深めているか」

- ・道徳的な価値を実現することの難しさをとらえている。
- ・登場人物を自分なりに具体的にイメージして、考えている。
- ・他者との論議の中で自分の考えを深めている。

## (5)評価文例（県教委作成「道徳アシスト2」より。教文部で一部修正）

### ★観点①から

- 道徳的な問題に対する判断の根拠やその時の心情を、様々な視点からとらえ、考えようとする姿が多く見られた。
- 2学期中頃の授業から、自分と違う意見や立場を理解しようとした姿が多く見られ、多面的・多角的な見方が身についてきた。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を考えるようになり、多面的・多角的な見方ができるようになってきた。
- 意見交換の中で聞いた友だちの考え方を参考にして、良いとわかっているにもかかわらず実際に行動することは難しい場合もあることに気づき、より深く考えようとしていた。
- 一つの見方だけでなく、様々な立場や場面を想定しながら道徳的な問題について考える等、物事を多面的・多角的にとらえようとする姿が多く見られた。
- 「AさんとBさんの両方の考えがどちらもよくわかるので、今も私は悩んでいます」など、両者の視点に立って自分の考えを深めていた。

### ★観点②から

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えたり、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていたりしていた。
- 友だちとの話し合いを通して、自らの生活や考えを見直す姿が多く見られ、学習した道徳的価値を自分の生き方に関わらせて考えていた。
- 道徳的な問題に対して自分の取り得る行動を友だちと話し合う中で、自分の考えをさらに深めていた。
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分事としてとらえ、友だちとの話しあいの中で実現に向けてのヒントを得ようとしていた。
- 「そうはいっても、実際にできるかどうかは悩むよ」と自分なりの発言をする等、道徳的価値を実現する難しさを自分のこととしてとらえ、考え続けていた。
- 主人公の行った行動だけではなく、気持ちにも目を向けるようになり、そんな見方を自分自身も心がけていきたいと考えるようになった。
- 道徳的な問題に対し、友だちの意見に耳を傾けて、自分に置き換えて考えながら「なるほど」と納得したり、「でも、やっぱり」と自分の考えをさらに深めたりしていた。